

はな。ねー松竹たーて、門毎になの。これから學校でみんなして歌ふのだよ。今日が一番おめでたい日だつてさ。だから今日は學校でみんなしていいねいにお祝ひ申すんだわ。あらかーちやんまた忘れたの。歸つたらおぼさんのとこへも、ふともだちのとこへもお祝ひに行くんだわねー……………。

どんな偏僻の田舎に於ても、小供があれば黄金も玉も何物ぞ。此明治の御世に處しては此樂しみは充分に樂しみ得らるゝのである。(元)

秋田市正月の名物

河井たま子

名物と申したのは正月の行事の一としてかそへられて居る万才をさしたのであります。万才といへばどこの國にも行はれる事でありすが此所に名

物といふは他の地方と余程趣がちがつて居るからであります

正月四日五日の頃より廿日ごろまで行はれるのであります。何所の家でも万才に對する家例があつて日とりも之れによりて一定して居ります。或家では四日とか或家では五日とかそれ／＼さまつて居ます。其日に万才をよんでそれ／＼まわするのであります。万才をよぶ日はその家の云はゞ新年宴會なので親類縁者を招ぎ酒宴をはるのであります。

万才は三河万才と同じく大夫才造の二人が例の裝飾でやつて來るよんだ家ではまづこれを客室の中席位の處にすねるのである。新年宴會の事であるからなるべくは夕方にしたひのであるが万才の方の時間の都合によりそう行かない大抵は万才の方の時間の都合により此方の時間をさめるのであ

る席定まるや次の如きもん句を歌ひながらまひ初めるのである大夫は扇をかざして才造は鼓を打ちながらまうのであります而して其文句の節は「のりと」の様なもので三河万才のやうな下品下作な物ではないなかゝ上品なしかも春めかしい面白ひ感起さしむるものである而してそのまひ歌に十二種ある其内神力万歳といふのは次の如くです  
 御万歳とふやありがたかりける神力のきすいも  
 新にればはします、切ては貴き日の本の御宮社堂  
 の始りには昔御はんやの其時は伊弉諾伊弉册の  
 二人の御神は天降らせ給へば天照大神たてにつ  
 き初めて日本をとり立たせまへば其後神功皇后の  
 御對陣に蓬來の三漢をばせめはるばせ給へば  
 八幡山には跡をたて弓矢神とも云はれたれば天  
 には日月下は堅牢地神海底には大龍王川に水神

ましませば魔王住むべき所もなし悪魔や外道  
 終りなうゝ八剏熱田大明神は御内神の柱の數  
 を四十八本にきめさめたまへば西方にかしたて  
 のみと手斧を御手に持て千歳やれや萬歳やれや  
 萬歳くゝと打拂は屋根の檜皮の二重たるき結構  
 はにんくゝ二枚のこまへなれば玉理殿にかり天  
 井御成殿にごふ天井人家の數は數知れず四海の  
 浪風穩に金の音をこむ峰の松風万歳くゝと祝と  
 て天下豊に治まれは土の郭の我等まで豊かに榮  
 ひし熱田の宮立たりければ誠に目出度候へける  
 何れも「御万歳といふや」で初まり「誠に目出度候  
 へける」で終る右終て大夫が才造に珍しきはなし  
 なきやともとめる才造得意になつて話し出す話の  
 種類は種々あるが概していへば滑稽的でどんな人  
 でも笑ひ出さずには居られない一方には辨の達者

なのにもよるであらうこの話が一つ終れば一番おはるのである更に或種類のまひ歌をうたひて二番めをはじめめる舞ひ終て話をはじめるといふ順である而して其家々の家例で十二番みなやらせる家もあるまた七番五番三番よりすくないのは無いすべておはれば酒宴となり万歳の大夫才造は次の間で酒肴の饗應をうけ金子及白米をもろうて歸り他家へまはるのである

我が地方の秘歌

相模高座 平岩繁子

おねんじよおさまよおよねで十よ  
 おねんじよおさまよおよねで二十よ  
 おねんじよおさまよおよねで三十よ  
 おねんじよおさまよおよねで四十よ  
 おねんじよおさまよおよねで五十よ

おねんじよおさまよおよねで六十よ  
 おねんじよおさまよおよねで七十よ  
 おねんじよおさまよおよねで八十よ  
 おねんじよおさまよおよねで九十よ  
 おねんじよおさまよお百で見てござる

右の如きこんなつまらない歌で有り升か秋の地方(高座郡南部ノ田舎)では非常に流行して子供の遊んでおる所ではきかない事ばかりません學校などの運動場でも雨天等の時教室の中で(休の時)もおねんじよお様よおよねで云々のこへなきかないことさばありませんそれを行ふ彼等は實に面白くお互に力を入れて汗を流してなるもあります三四才の小さい子供はおねんじよおさまをきく泣く手も止むと申し升

質問題

岐阜縣 田口由之助

女子の總べて男子に比し思考力に乏しき所以如何果して是が事實でしようか若し實事ならば其原因は何如でしよう愛讀諸姉の御答を望む (擔任記者)